

病態制御医学講座 救急医学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	林 寛之	平成23年4月ー現職
准教授	木村 哲也	平成23年4月ー現職
講師	小淵 岳恒	平成12年5月ー平成14年3月、平成17年4月ー（平成28年4月ー現職）
助教	森田 浩史	平成23年4月ー平成25年6月、平成26年4月ー
助教	川野 貴久	平成30年4月ー現職
助教	山田 直樹	平成25年4月ー現職
助教	山中 俊祐	平成29年10月ー現職
特命助教	神川 洋平	平成31年4月ー現職
特命助教	辻 英明	平成28年4月ー現職
特命助教	田下 大輔	平成2年4月ー現職
特命助教	秦 龍彦	平成2年4月ー現職
特命助教	石本 貴美	令和3年4月ー現職
特命助教	水野 晴貴	令和3年4月ー現職
助教	此下 尚寛	令和元年10月ー現職
特命助教	伊藤 有紀子	令和2年4月ー現職
特命助教	田中 徳治	令和3年4月ー現職
特命助教	大濱 弘光	令和元年8月ー現職
特命助教	笠松 真吾	令和3年4月ー現職

2. 研究概要

研究概要

- ①ER型救急体制の構築
- ②ERにおける医学生、初期研修医、後期（専門）研修医の教育
- ③ER診療における医療安全
- ④診療所総合医（家庭医）、病院総合医（総合内科医）の養成プログラム
- ⑤緊急被ばく医療に強い救急総合医養成プログラムの開発
- ⑥救急医療情報伝送システムの開発
- ⑦災害時医療における疫学調査

キーワード

ER型救急、ERにおける教育、総合医、緊急被ばく医療、救急情報伝送システム

業績年の進捗状況

特色等

- ①救急部と総合診療部の合体運営によるER型診療の24時間3交代勤務体制の確立は、全国の大学病院での先駆けであり、全国のモデルとして広がり、現在では国公立大学の半数以上がER型救急体制を開始するに至った。
- ②卒後臨床研修の必修化において最重要課題であった「専門外の救急へも対応できる医師の養成」においては、ER型救急体制のもとでの研修が最も大きな効果を生むものであり、また、初期研修医の確保においても病院の発展性に大きな貢献ができています。
- ③ERにおける診療の医事紛争の増加が懸念される時代にあって、ER型救急医の経験症例の広報、啓蒙活動（講演、著書改訂、教育セミナー）は他施設での医療過誤防止につながる役割を果たしている。
- ④ER型救急医の養成施設が少ない我が国では、本院の「ERに強い救急医養成コース」は他施設のモデルとなり、同様のER型救急医養成の後期研修を取り入れる施設が全国で増えている。
- ⑤家庭医の養成コースは全国的に始まりつつあるが、本院の救急部と総合診療部が合体して立ち上げた「救急に強い家庭医」養成研修は、全国でも類を見ないものとなり、県内の総合診療医養成に大きく貢献できている。
- ⑥原子力発電所が全国で最も多い本県にあって、緊急被ばく医療体制の構築にER型救急医が取り組んでいることは全国でも類をみないものである。
- ⑦救急隊から病院への、クラウドコンピューティングを利用した救急情報伝送システムを開発し、県内複数消防と病院間に配備した。特に急性心筋梗塞患者の治療成績向上につながることを期待されている。

本学の理念との関係

救急部、総合診療部の一体化による救急外来の診療、教育体制の検討は、プライマリケアに強い医師養成の教育の確立につながり、救急外来における医療過誤防止のための診療、教育体制の検討は全人的な患者本位の診療の可能な医師養成につながる。全国有数の原発立地地域である福井県における、緊急被ばく医療体制構築・人材育成は、地域に根ざした貢献度の高い医療教育機関としての福井大学の役割を果たすものである。

3. 研究実績

区分		編数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
		2014～2019年分	2020年分	2014～2019年分	2020年分
和文原著論文		1	1	—	—
	ファーストオナー	8	2	24.48(24.48)	3.391(3.391)
	コレスポ ンデ ィング オナー	3	2	6.94(6.94)	3.391(3.391)
	その他	10	4	41.174(41.174)	13.335(13.335)
	合計	18	6	65.654(65.654)	16.726(16.726)
英文論文					

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

2053067

Andrew Guy, Takahisa Kawano, Floyd Besserer, Frank Scheuermeyer, Hussein D Kanji, Jim Christenson, Brian Grunau: The relationship between no-flow interval and survival with favourable neurological outcome in out-of-hospital cardiac arrest: Implications for outcomes and EPCR eligibility, Resuscitation, 155, 219–225, 202010, DOI: 10.1016/j.resuscitation.2020.06.009, #4.215

2053068

Sesn Sinden, Matthieu Heidet, Frank Scheuermeyer, Takahisa Kawano, Jennie S Helmer, Jim Christenson, Brian Grunau: The association of scene-access delay and survival with favourable neurological status in patients with out-of hospital cardiac arrest, Resuscitation, 155, 211–218, 202010, DOI: 10.1016/j.resuscitation.2020.05.047, #4.215

2053069

Yohei Kamikawa, Hiroyuki Hayashi: Equivalency between the shock index and subtracting the systolic blood pressure from the heart rate: an observational cohort study, BKC Emergency Medicine, 20(1), 87, 20201031, DOI: 10.1186/s12873-020-00383-2, #1.48

2053070

Brian Grunau, Karin Humphries, Robert Stenstrom, Sarah Pennington, Frank Scheuermeyer, Sean van Diepen, Emad Awad, Rehaf Al Assil, Takahisa Kawano, Steven Brooks, Bobby Gu, Jim Christenson: Public access defibrillators: Gender-based inequities in access and application, Resuscitation, 150, 17–22, 202006, DOI: 10.1016/j.resuscitation.2020.02.024, #4.215

2053071

Kazuki Matsumoto, Sayo Hamatani, Takuya Makino, Taku Uemura, Futoshi Suzuki, Seina Shinno, Tomoki Ikai, Hiroyuki Hayashi, Chihiro Sutoh, Eiji Shimizu: Guided Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy in Japanese Patients With Obsessive-Compulsive Disorder: Protocol for a Randomized Controlled Trial., JMIR research protocols, 9(6), e18216–e18216, 20200624, DOI: 10.2196/18216, #0.69

2053072

Syunsuke Yamanaka, Ran D. Goldman, Tadahiro Goto, MPH, Hiroyuki Hayashi: Multiple intubation attempts in the emergency department and in-hospital mortality: A retrospective observational study, American Journal of Emergency Medicine, 38(4), 768–773, 202004, DOI: 10.1016/j.ajem.2019.06.028, #1.911

- b. 原著論文（審査無）
- c. 原著論文（総説）
- d. その他研究等実績（報告書を含む）
- e. 国際会議論文

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

2053073

林 寛之：オーダーメイドの高齢者とのコミュニケーションTips: Dr. 林の高齢者救急急変お助け本, 日本医事新報社, 44572, 20210322, 978-4-7849-4699-0

c. 編集・編集・監修

2053074

寺澤 秀一, 林 寛之, 氏家 靖浩: 模擬患者とつくる医療面接, ナカニシヤ出版, 20201105, DOI: 978-4-7795-1224-7

(4) 和文：論文等

a. 原著論文（審査有）

2053075

水野晴貴, 山田直樹, 川野貴久, 森田浩史, 小淵岳恒, 木村哲也, 林寛之: LRINEC スコア0点で超音波検査が有用だった劇症型溶血性連鎖球菌感染症による壊死性筋膜炎の一例, 日本救急医学会中部地方会誌, 16, 89-91, 202012 (症例報告)

b. 原著論文（審査無）

c. 総説

2053076

石本貴美 山村修 辻英明 林寛之: 福井大学医学部「総合診療・総合内科センター」開設, 治療, 103(3), 256-259, 20210301

2053077

林 寛之: 第207回 高齢者の転倒 Part1 ~なんで転んだの?~, レジデントノート, 22(18), 3459-3471, 20210301

2053078

大濱弘光 林寛之: 救急医から小児科医へのメッセージ, 小児内科, 53(2), 169-176, 20210201

2053079

林 寛之: 第206回 なめたらいかんぜStroke Part6~曖昧模糊の脳出血~, レジデントノート, 22(15), 2923-2937, 20210101

2053080

小泊拓矢, 山田直樹, 小淵岳恒, 木村哲也, 林寛之: 重症熱傷患者の治療中に腸管気腫症・門脈ガス血症を合併した一例, 日本救急医学会中部地方会誌, 16, 53-55, 202012

2053081

石本貴美, 山村修, 辻英明, 林寛之: 「総合診療・総合内科センター」設立で実現した, 時代と個のニーズを満たす総合医育成プログラム, ホスピタリスト, 8(4), 784-787, 20201201

2053082

林 寛之: 第205回 なめたらいかんぜStroke Part5 ~TIA, 帰宅か, 入院か, それが問題だ...~, レジデントノート, 22(13), 2489-2500, 20201201

2053083

林 寛之: 第204回 なめたらいかんぜStroke Part4~時間の定義から組織の定義へ~, レジデントノート, 22(12), 2331-2343, 20201101

2053084

神川洋平 林寛之: 腰椎穿刺, ERで闘うための手技, 256-262, 202010

2053085

秦龍彦 林寛之: 除細動, カルディオバージョン, ERで闘うための手技, 89-100, 202010

2053086

林 寛之: 第203回 なめたらいかんぜStroke Part3~どうして見逃すStroke~, レジデントノート, 22(10), 1929-1940, 20201001

2053087

林 寛之: 第202回 なめたらいかんぜStroke Part2~脳梗塞mimicsに騙されるな!...え?脳梗塞じゃなかったの!~, レジデントノート, 22(9), 1761-1773, 20200910

2053088

田下大輔 林寛之: 身体所見・バイタルサイン, 救急医学, 44(10), 1222-1228, 20200910

2053089

林 寛之: 第201回 なめたらいかんぜStroke Part1~急げや急げホイサッサ~, レジデントノート, 22(7), 1369-1383, 20200801

2053090

林 寛之: 第200回 動くともまいがするんです めまいPart3~患者は嘘をつく~, レジデントノート, 22(6), 1197-1209, 20200701

2053091

林 寛之: 第199回 神様, 仏様, MRI様から脱却するめまい Part2 ~HINTS+をマスターせよ~, レジデントノート, 22(4), 789-797, 20200601

2053092

森田浩史 林智美: 大雪により生じた交通障害に起因する帰宅困難者対応と業務継続について, 看護管理, 30(5), 434-439, 20200510, DOI: 10.11477/mf.1686201578

2053093

林 寛之: 第198回 君は外側半規管のBPPVを治せるか? ~BBQ法とGufoni法~, レジデントノート, 22(3), 593-605, 20200501

2053094

林 寛之: 第197回 頭が痛ってえな, くそお! Part9 ~マニアも垂涎, 知ってるとかっこのいい頭痛の鑑別診断, レジデントノート, 22(1), 163-172, 20200401

業績一覧

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

2053095

林 寛之: Professional Autonomyの確立に向けた消防機関における救急教育体制のあり方, 第29回 全国救急隊員シンポジウム, 202101

2053096

林 寛之: 知っ得! 救急看護臨床推論～ショックに強くなる, 第24回 日本看護管理学会学術集会, 202008

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

2053097

水野 晴貴: COVID-19に対し長期VV-ECMO管理後人工呼吸器離脱が可能であった一例, 第48回 日本救急医学会総会・学術集会, 202011

2053098

山中俊祐、後藤匡啓、森川幸治、渡瀬博子、岡本洋史、萩原佑亮、長谷川耕平: 救急外来における挿管困難と初回挿管成功の機械学習予測モデル, 第34回 人工知能学会全国大会, 202006

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

2053099

林 寛之: ER診療, 第23回 日本救急医学会中部地方会 総会・学術集会, 202012

b. シンポジスト・パネリスト等

2053100

神川 洋平: 救急における一発診断【皮膚変色】, 第23回 日本救急医学会中部地方会 総会・学術集会, 202012

2053101

林 寛之、Ran Goldman, MD: Dr. GとDr. Hの小児虐待救急対応基本のABC, 第26回学術集会 いしかわ金沢大会, 202011

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額	
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額	

(B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本消化器内視鏡学会	一般会員	伊藤 有紀子
日本糖尿病学会	一般会員	伊藤 有紀子
日本救急医学会	一般会員	木村 哲也
日本外科学会	一般会員	木村 哲也
日本胸部外科学会	一般会員	木村 哲也
日本血管外科学会	一般会員	木村 哲也
日本循環器学会	一般会員	木村 哲也
日本心臓血管外科学会	一般会員	木村 哲也
日本プライマリ・ケア連合学会	一般会員	伊藤 有紀子
日本内科学会	一般会員	伊藤 有紀子

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名
-----------------	-----	----

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長(主査)・委員 の別	氏名	査読編数
----------	-------	------------------	----	------

(E) その他